

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鞆ヶ谷 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの問題で全国平均を上回っていた。 漢字に書き表す等の言語事項や読むことについての問題の正答率が高かった。 文章を読んで自分の考えをまとめて文章に書き表すことについて、全国平均を上回っているものの、正答率は低く、課題が見られた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、文章の中心や必要となる情報を読み取る問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 図やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように工夫して書き表す問題
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 多くの問題で全国平均を上回っていた。 変化と関係領域での、比例の関係をを用いる問題での正答率が特に高かった。 図形の性質や面積が等しくなる理由を書く問題、割合についての問題に課題が見られた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる2量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを説明する問題
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 高さが等しい三角形について、底辺と面積をもとに面積の大小について、その理由を書き表す問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」という質問に対し、「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童の割合が高い傾向が見られた。家庭学習の習慣が定着しつつあるが、家庭学習の時間については、1日当たり1時間以上勉強をする児童の割合は少ない。 「自分には、よいところがあると思いますか。」「学校に行くことは楽しい。」「友達関係に満足している。」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が高い傾向がみられた。人との交流を通して友達のよさを見付ける活動をこれからも増やしていきたい。 授業についても自分から取り組んでいることや自分から考えをまとめて、話し合い活動を通して自分の考えを深めている党の質問の肯定的な回答の割合が高く、意欲的に授業に取り組んでいることができています。 普段（月～金）の1日当たりの読書時間については、「30分以上」と回答する児童の割合が高く、読書好きな子も多い。 英語の勉強についての肯定的な回答の割合が低いため、苦手意識をもたないような授業の構成が必要である。 授業の中でICTを活用しているかについての質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が低かった。授業の中で積極的に活用していくことが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 自分の考えを表す、伝える力を育てるために、これからも考えを書き表す時間の確保や伝え合う場の設定など、対話的活動の充実を図った授業を継続して展開していく。また、そのためのICTを活用した授業を積極的に行うとともに、子どもたちのスキルも高めていくようにする。
- 様々な読書活動を取り入れ、子どもたちの読書量を増やしていくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- これまでに引き続き、家庭学習に読書を位置付けたり、参考となる自主学習ノートを掲示したり、ドリルアプリを使った宿題を出すなど、家庭学習における取組を行っていく。
- 携帯やスマホの使い方については、各家庭での指導を継続できるよう、随時情報を発信し、協力を呼びかけていく。